静岡・勝間田城跡

1 所在地　静岡県榛原郡榛原町勝田字小山段

2 調査期間　一九八五年（昭60）七月～八月

3 発掘機関　榛原町教育委員会

4 調査担当者　小杉　達・山田元広・及川　司（静岡県教育委員会文化課）

5 遺跡の種類　城郭跡

6 遺跡の年代　一四世紀～一五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

勝間田城は、牧ノ原台地の山脚東に向かって突出している尾根上に、この地域の豪族であった勝間田氏によって築かれた城郭であり、『今川家略記』『今川記』等によれば、文明八年（一四七六）に今川氏の攻撃によって落城している。本城は本曲輪、二の曲輪、三の曲輪、出曲輪等からなる。現在、堀は一部埋めたてられている所もあるが、ほぼ残存しており、土塁についてはほとんど完全に残されている。

一九八三年二月、県の史跡に指定され、それを契機として策定された第一次整備計画の一環として、城郭内の遺構確認を目的とする発掘調査が一九八五年より三年計画で行われることとなった。木簡は三の曲輪の通称「馬洗場」と呼ばれる所から検出された、隅丸方形の平面プランをもつ大型の井戸状の遺構から、一五世紀第4四半期と考えられる陶磁器・土師質土器の他、建材、漆器等と共に五点出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「笠原殿」　(118)×17×3　019

(2) 「（穿孔）殿様より給候也　池田衆陣所」　402×85×3　011

(3) ・「〈　はきます　三斗俵　九郎兵衛入道　二内」　119×24×3　032

・「〈もミ　かきケや　三斗俵　九郎兵衛入道　はきます」

(4)

・「〈竹廿四本」

・「〈まる竹一

合廿五本」　　87×33×4　032

(5)

「御いらい□□の一枚も□□□□□（からすカ）」　(279)×25×4　019

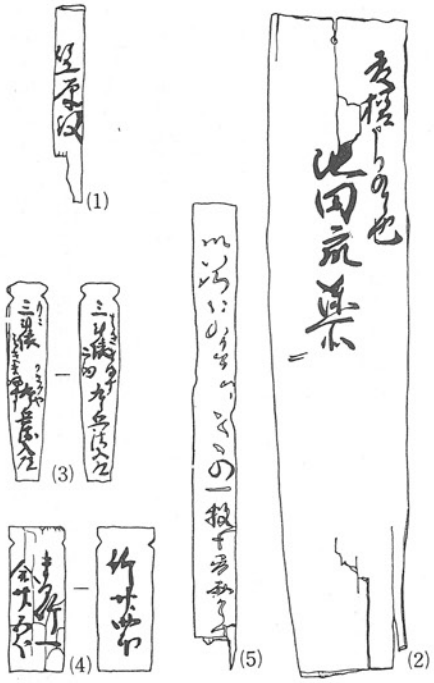
(1)は全体に墨痕がにじんでいて文字ははっきりとしないが、赤外線テレビ撮影により読むことができた。城内に立て籠った武将を示す木札かと考えられる。

(2)は大型のものであり、完形である。上端近くの中央に釘状のものを打ち込んだ痕と考えられる小孔がある。城内の一郭に池田衆と呼ばれる人々が詰めていて、その場所（陣所）に掛けられていた木札かと考えられる。

(3)は上端の左右に切り込みを入れた付札状のものであり、完形。墨痕は明瞭である。城内に調達された籾の俵に付けられたものであり、地名や人名が記されている。

(4)も(3)と同様、上端の左右に切り込みを入れた付札状のものであり、完形。やはり調達された竹に付けられていたものだろう。

(5)の上端は原形を保っていると考えられるが、下端は折損している。全体に墨痕は薄くはっきりとしない。三字目は「ろ」の可能性もある。



9　関係文献

榛原町教育委員会『勝間田城跡Ⅰ　昭和六〇年度発掘調査概報』（一九八六年）

（及川　司）